

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『謎の漢字 由来と変遷を調べてみれば』中公新書
2430 笹原 宏之／著 2017.4 811.2/㍻174

同じような形でも「麩」は携帯電話で打て、「麵」は打てないのは何故か？「謎」と「迷」のしんにょうの点の数の違いに意味はあったのか？この本では、こうした漢字を巡る様々な「謎」を解き明かします。

解き明かされる「謎」自体も興味深いですが、第2章ではこうした「謎」の調査過程が丹念に描かれています。著者の漢字に対するこだわりが伝わり、また普段は知ることの少ない「研究者はどのように研究をしているのか？」が見える一冊です。

『地図学の聖地を訪ねて』松山 洋／編著 二宮書店
2017.4 448.9/㍻174/

地図学を学ぶ上で登場する重要な場所、「聖地」ともいふべき土地へと実際に足を運んでみたという記録です。前半では「日本経緯度原点」、「日本標準時子午線」など地図測量の聖地を、後半では「百瀬川扇状地」、「阿蘇のカルデラ」など、高校の地理の教科書や地図帳に出てくる代表的な地図について、実際の現場を訪れています。旅の様子を記したレポートを、現地で撮った写真はもちろん、地形図と共に楽しめます。珍しい「聖地巡礼」の様子を、ぜひご覧ください。

『図説世界史を変えた50の戦略』ダニエル・スミス／著 原書房 2016.2 204/㍻162/

本書では、戦争・ビジネス・政治という3分野から、世界の歴史に大きな影響を与えた50の戦略を取り上げて解説しています。

古代ギリシアのトロイの木馬の事例から、マルクス&エンゲルスによる新思想の提示、さらにはビル・ゲイツによるマイクロソフトの成功まで、古今東西の画期的な戦略を概観できます。純粋に物語としても楽しめる本ですが、紹介されている戦略家たちの思考のあり方や分析力は、私たちの人生にも教訓を与えてくれるかもしれません。

児童・児童図書研究

『読みたい心に火をつける！ 学校図書館大活用術 (岩波ジュニア新書)』(木下 通子／著 岩波書店
2017.6 017/㍻)

高校の学校司書が、生徒の読みたい気持ちの後押し、進路選択の手助け、授業とのコラボ、出版社・書店との連携など数々の実践を紹介し、読者を学校図書館の利活用へと誘っています。学校図書館は生徒や教職員にとって、世界に開かれた窓のようです。

中高生向けですが、専門職員配置の問題へも踏み込んでおり、子どもや子どもの教育に関わる人にも読んでほしい本です。みなさんの町の学校図書館は、世界に開かれていますか？

雑誌・新聞

今、インターネットを介して自動車や宿泊施設などを交換・共有するシェアリングエコノミーが国内でも広がりはじめました。代表的なサービスである「民泊」を含め、シェアリングエコノミーに関する雑誌の特集・記事を紹介しします。

*特集 もうかるシェア経済

『エコノミスト』2017.8.8日号 Z/330.5/E1

*特集 シェアリングエコノミー

『Nextcom』2017. Summer Z/547/K

*特集 シェアリングエコノミー

『人民中国』2017.8月号 Z/302.22/J1

*特集 シェアリングエコノミーと交通

『IATSS review』2017.6月号 Z/681.4/I1

*「考えるルポ シェアリングエコノミーって何だ?」/高橋 秀実

『文藝春秋』2017.7月号 p.364-373 Z/051/B2

*特集 広がる民泊

『国際人流』2017.5月号 Z/319/K17

*特集 各国の民泊の現状

『自治体国際化フォーラム』2017.5月号 Z/318/J19

*「来年の民泊新法施行でゴングが鳴る 観光大国への鍵を握る“民泊”」

『週刊ダイヤモンド』2017.5.27日号 p.104-105 Z/330.5/S7

地域

『夜廻り猫 2 ワイドKC 860』深谷かほる／著
講談社 2017.3 LA726.1/F1/11-2

「泣く子はいねが 泣いてる子はいねが」

涙の匂いを辿って夜の街をパトロールする猫・遠藤平蔵を描く8コママンガ。悩んでいる者たちの心にそっと寄り添う姿が心にやさしく沁みわたります。

今年7月から渡辺直美主演で『カンナさーん!』がテレビドラマ化されたことでも知られる作者(福島県出身)による本作『夜廻り猫』。web上で連載されたものを単行本化、第21回手塚治虫文化賞短編賞を受賞するなど話題になりました。シリーズ累計10万部突破。

『てっぺん 我が妻・田部井淳子の生き方』

田部井政伸／著 宝島社 2017.7 L289/T30/12

女性で世界初エベレスト登頂に成功した登山家 田部井淳子さんの夫である著者が、山での出会いからがんの治療をしつつ精力的に活動を続けた妻との日々をまとめたものです。中学2年の時に磐梯山に登った日記やエベレスト登山の時の夫婦の往復書簡も収録され、「てっぺん」を追い続けた彼女の人生がああ笑顔とともに溢れています。

2016年夏、病状が悪化し最後の登山となった東北の高校生との富士登山の場面に胸が詰まり、涙がこぼれました。今年は息子さんが遺志を引き継ぎ全員無事登頂を果たしたそうです。